

# 質的アプローチを用いた研究手法 —健康教育分野への適用

大谷 順子\*<sup>1</sup>

抄録：質的手法は近年，社会学，心理学，教育学，人類学，健康科学，ビジネスのマーケティングリサーチなど，様々な分野で用いられるようになってきている。一方で，質的手法にどのように取り組めばよいのか，あるいは，学術的に価値のある研究になっているのか，不安を抱えている。健康教育学分野においても例外ではない。そこで本稿では，はじめに，質的研究の方法論の基本について，まずは方法ありきでなく「はじめにデータありき」のアプローチで，量的との比較も交えながらまとめ，混合研究方法も紹介する。つぎに，質的研究を上手に行うのに有用と思われる質的データ分析ソフト（QDAソフト）について紹介する。具体的な研究プロジェクトを進めていくときに参考になりそうな，参考文献も示す。教科書的な書籍と，具体例として参考になる論文である。質的研究においては，いろいろな参考文献を読み比べることが重要である。孤独な作業ともなりがちな研究をグループ作業として進める方法もまたあみだしてほしい。健康教育は，世界的にみても日本は進んでおり良い事例を多く持っている。健康教育学分野でも，ますますの質的手法を用いた良い研究成果が発表されることを期待したい。

〔日健教誌，2014；22(2)：177-184〕

キーワード：質的手法，質的研究，質的データ分析（QDA）ソフト，混合研究方法，健康教育

## I はじめに

質的研究の手法は近年多くの分野から大きな関心を集めている。社会学，心理学，臨床心理学，教育学，民俗学，文化人類学，医療保健，看護学，医療人類学，言語学，歴史学，メディア・コミュニケーション学，経営学，ビジネスのマーケティングリサーチなど，関連分野は多岐にわたり，質的研究方法の訳書や入門書も刊行されてきた。一方で，量的研究手法に慣れてきた研究者たちは，少なからず質的研究の手法にどのように取り組めばよいのか，あるいは，学術的に価値のある研究になっているのか，不安を抱えている。健康教育

学分野においても例外ではない。本稿では質的研究を用い，質的アプローチと量的アプローチを組み合わせた混合研究方法についても言及しながら，健康教育学分野における質的手法を用いた研究論文の事例を紹介し，質的アプローチを用いた研究手法について解説する。関連分野における質的研究方法論の書籍や質的データ分析ソフトについても紹介する。

## II 質的研究の方法論

質的研究にはグランデッドセオリー，民族誌学，現象学などさまざまな手法がある。そして異なるリサーチクエスションに対応するために，異なる研究手法を用いる。個別の方法に関しては別途参考書を参考にさせていただくとして，本稿では個別の手法はとりあげず，質的研究手法としてまとめて論述したい。まずは，質的な研究手法の目指すところは何かについて検討する。多くの社会調査

\*<sup>1</sup> 大阪大学大学院人間科学研究科

連絡先：大谷順子

住所：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科

Email：otani@hus.osaka-u.ac.jp

は計量的な手法により実施されるが、それだけでは未解明な問題を残す場合がある。たとえば、「何が起っていますか。あるいは何がここで重要ですか」、「人々はどのようにこの問題を見ますか」という疑問に対する答えは、質的アプローチによって解明できることがある。質的研究の目的は仮説をテストすることではない。データから理論を作り上げていくことである。神馬は、リチャーズの本に関する書評の中で、「質的研究にとって大事なのは、『はじめに手法ありき』ではなく、『はじめにデータありき』という姿勢をとっている」、「『データをして語らしめる』ことの難しさは得たデータを『価値のある』データにしていくことである」というリチャーズの主張を強調している<sup>1)</sup>。

では、質的研究に用いる質的データとはどのようなものか。それは、豊富で複雑なデータであり、コンテキストの記録である。また、自然な設定の

中で創られた自然言語で表現されるデータであり、研究対象の意味および見方を示す記録である。質的データはどのように集めるのか？質的データに関してはこれを「作成する」。あえて、「集める」といわずに「作成する」と言う。しかし、捏造をするという意味ではない。質的データを作成するためのテクニックとしては、キー・インフォーマント (Key Informant) へのインタビュー、フォーカス・グループディスカッション (FGD) (グループインタビュー)、観察からのフィールドノート、文献の要約、アンケートの自由記述式回答、会話、日記、そして絵画、写真、地図、図面、ビデオなどがある。

質的データを処理するためのテクニックとしては、膨大で複雑なデータ記録の軌跡を保管し、同時にどのデータにもアクセスできるようにそれを保つ。また各データ記録のコンテキストは落とす

表1 質的コーディングと量的コーディングの比較

	量的	質的
いつコーディングするか	通常は、データ収集と分析の間の1つの段階	プロジェクトの全体を通して生じる
コードの起源 カテゴリーに対する関係	データに前もって定義したカテゴリーを適用	データからコードを生成
元のデータとの関係	適用されたコードは、元のデータの要約か代替したもの	コードは、アクセスを確実にして、元のデータのコピーまたはポインターを保持する
柔軟性について	コードは固定 見直すことは不可能であることが多い。元のデータが保持されていないため	コード化されたデータを再訪。カテゴリーの発展をチェックするため コーディングの見直しを行う
コードの変更 プロジェクトの間、コーディングカテゴリーについて	試験実施後、通常、新しいカテゴリーを加えることはできない	新しいカテゴリーは、分析過程を通して作成
コードを作りかえ	より単純なイメージ像を得るためにコードの崩壊	「コーディング・オン」は理論を開発。コーディングされた素材をさらにコーディングし続ける。コーディングを重ねることで、新しいカテゴリーや次元をつくることができる。共通の意味が生じるにつれ、カテゴリーの融合が起こる
チームでの作業	コーディングは、分析から切り離すことができる事務的な作業	コーディングを行う人が分析的作業(プロジェクト解釈に関係している)も行う

出典：『質的データの取り扱い』2009年、119頁 表5-1に加筆修正

のでなくそれを維持する，参加者との話し合いに出てくる解釈を，メモに省察し記録するなどの方法がある。

データを分析するためのテクニックとしては，概念を作成し，省察する。概念についてのデータを集めるために，その概念に関するデータをコーディングする。そして概念の関係についての理論を構築する。テーマやパターンを検索し，それについて説明をおこない，また多様性を示し，それについても説明する。メモ中の解釈をさらに省察して記録する。主張したいことを正当化し，代案を探求することなどがある。この作業は孤独な作業となりがちだが，神馬がリチャーズの提案を書評で挙げているように，「できるだけチーム作業をするように，無理なら，せめて聞いてくれる相手を探すように，そして話す習慣をつける」ようにする。そうすることで，行き詰まる研究をまた一歩先に進めることができる。

質的分析は非統計的である。あらかじめ定義された質問はない。そして，答えに重要な手段はない。よく指摘される指摘データの妥当性については，理論がデータによってどのように作成され追求されたか示すことに依存する。複雑なデータ記録を読み，比較することにより行われる。妥当性は後で紹介する質的データ分析ソフトを用いると確保しやすい。

表1に質的・量的コーディングの比較を示した(表1)。

### Ⅲ 保健医療と健康科学分野における混合研究法

質的と量的を合わせたアプローチとして，混合研究法が注目されている。混合研究法研究者の分野は，教育学，心理学，社会学，ビジネス，健康科学と多岐にわたる。健康科学分野では，1999年，量的研究を主としてきた米国の国立衛生研究所(NIH)行動科学および社会科学研究所が質的・混合研究法のためのガイドラインを発表した。そこには質的・量的アプローチを組み合わせたモデル

が掲載されている。2004年にはNIHの7つの研究所が共催し「ソーシャルワークと他の保健医療専門分野における質的および混合研究法のデザインと実施」と題したワークショップを開催した。そして，介入研究(intervention research)において混合研究法を取り上げており，ますますその応用が奨励される傾向にある。

クレスウェルらが行った混合研究法の定義を以下にあげる。「混合研究法(mixed methods research: MMR)とは，哲学的仮定と探求の研究手法をもった調査研究デザインである。研究方法論として，データ収集と分析の方向性，そして調査研究プロセスにおける多くのフェーズでの質的と量的アプローチの混合を導く哲学的仮定を前提とする。また，研究手法として，1つの研究，または順次的研究群での量的かつ質的データを集め，分析し，混合することに焦点をあてる。さらに，その中心的前提は，量的・質的アプローチをともに用いるほうが，どちらか一方だけを用いるよりもさらなる研究課題の理解を生む，ということである」<sup>2)</sup>。

また，クレスウェルがさらに簡単に定義したのもある。すなわち，

「リサーチクエスションをより完全に理解するため，量的及び質的データ(又は量的及び質的研究)を合わせて使おう」(「混合研究法国際シンポジウム：量的アプローチと質的アプローチの統合」基調講演，2013年10月20日，於：東京品川グランドホール)というものである。

クレスウェルらは，トライアングレーション(triangulation)デザイン，説明的(explanatory)デザイン，探究的(exploratory)デザイン，埋め込み型(embedded)デザインの4つの基本デザインとそれぞれの具体例として4本の刊行された論文の例を紹介している<sup>3)</sup>。その4つの論文例を表2に示す。健康教育学にも関連する例であるので，『人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』(2010年訳)を参照されたい。

混合研究法といっても，質的と量的の組み合わせ

表2 混合研究法を用いた代表的な4論文

---

Jenkins JE. Rural adolescent perceptions of alcohol and other drug resistance (地方の青年によるアルコールや他のドラッグへの抵抗に関する認知). <i>Child Study J.</i> 2001; 31: 211-224. (問題理解のための量的および質的データの同時収集)
Rogers A, Day J, Randall F, et al. Patients' understanding and participation in a trial designed to improve the management of anti-psychotic medication (抗精神病薬治療の管理を改善するためにデザインされた臨床試験における患者の理解と参加). <i>Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol.</i> 2003; 38: 720-727. (実験における質的データの使用)
Aldridge JM, Fraser BJ, Huang TI. Investigating classroom environments in Taiwan and Australia with multiple research methods (多元的調査法による台湾・オーストラリアの教室環境に関する研究). <i>J Educ Res.</i> 1999; 93: 48-62. (質的データによる量的調査結果説明)
Myers K K, Oetzel JG. Exploring the dimensions of organizational assimilation: Creating and validating a measure (組織への同化のディメンション(特質)を探索する—測定方法を創出し妥当化する). <i>Commun Q.</i> 2003; 51: 438-457. (量的手段(道具 instruments)開発のための質的探求)

---

せ方、タイミングやその重きの置き方によって、さまざまなデザインやタイプさらにその変形がある。なお、原著は2011年に改訂版が刊行され、トライアングレーションデザインは収束(convergent)デザインと改名し、さらなるデザインバリエーションとして、変形的(transformative)デザインと多段階(multiphase)デザインの2つを合わせた合計6つのデザインが紹介されている。とはいうものの、基本は変わっていないことを原著者らとも確認した。また、『社会と調査』(一般社団法人社会調査協会編(有斐閣)第11号(2013年9月))において、特集「量と質を架橋する—混合研究法(Mixed Methods Research)の可能性」を組んでいる。こちらも参照されたい。

#### IV 質的データ分析ソフト(QDAソフト)

以前は、日本語に対応した質的データ分析をおこなうソフトウェアが存在していなかった。しかし近年ではNVivoをはじめとするソフトウェアが登場しており、膨大で複雑なデータ記録をこのようなソフトウェアを用いることで柔軟に取り扱うことができるようになってきている。テキストだけではなく映像や写真、音声のデータを取り扱うことも可能である。ソフトウェアでは、コーディングの作業を進めても元のデータを失わないだけでなく、いつでも元のデータへともどることができ

る。さらにデータ分析の過程を記録できる。なぜコーディングをおこない、その分析で何を省察したのかをどの分析の段階でも書き残すことができる。それは、質的データ分析の過程、そして理論の構築に至る軌跡を他者に明らかにできることを意味する。これは、質的研究で言うところの妥当性(validity)に繋がる。これは、量的研究者が、質的研究は科学的でない躊躇する理由としてよくあげる懸念に対応することになる。

さらに、混合研究法を用いるには、量的および質的データ分析ソフトウェアプログラムの組み合わせが行われる傾向がある。例として、SPSSのアウトプットとしての質的コード数、MAXqdaにおける属性としての量的変数、NVivoにおけるマトリックス機能などがあげられる。

また、質的データ分析ソフトを用いた研究の具体例がオンライン出版(Methods in Practice, Lyn Richards 2009 [www.sagepub.co.uk/Richards](http://www.sagepub.co.uk/Richards); [www.uk.sagepub.com/richard](http://www.uk.sagepub.com/richard))において、NVivo, Atlas.ti, MAXqdaなどを用いた10例が紹介されている。

1例目の研究成果は大谷により3編の学術書として刊行されており、どのように具体的に用いられたかが紹介されている<sup>4-6)</sup>。併用して参考にしていただきたい。

ソフトウェアに関する参考文献としては、佐藤郁哉氏による3文献がある<sup>7-9)</sup>。そのうちの一つの

文献では、各種ソフトの比較、長短あることが紹介されている<sup>9)</sup>。それぞれの研究デザインにあわせて使いやすいソフトウェアを選択すればよいが、MAXqdaがお勧めかという印象である。もっともバージョンアップを重ねて各ソフトウェアはお互いにますます類似してきている。佐藤氏は質的研究手法の権威である。健康科学分野に特化していないが他の書物も手に取ってみたい。『暴走族のエスノグラフィー』(Kamikaze Biker)<sup>10,11)</sup>を読んで質的研究のファンになる量的研究者も少ない。

## V 定番の参考文献の紹介

次に、健康科学分野の質的研究法に関する参考文献を表3に示す。

健康科学分野に限らないが質的手法の定番、欧米の大学院で必ず読む書も翻訳されている。『質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順』操華子・森岡崇訳(初版1999年、2版2004年、3版2012年)もぜひ参考にされたい。『質

的研究入門〈人間科学〉のための方法論』小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳は、ドイツ語で書かれたものが英訳されベストセラーとなり中国語やその他の言語に翻訳されている。日本語訳では小田の訳はドイツ語原著からの翻訳であろう。他の訳者は英語翻訳からの和訳であろう。英語では入門書として大変わかりやすいが、日本語になると難解になる。アマゾンのカスタマーレビューにもそのような書き込みが多い。この分野の専門書であるリチャーズの『質的データの取り扱い』を翻訳した者としても味わった苦労がそこから伺える。

『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』操華子・森岡崇訳 日本看護協会出版会、2007年は、英語圏大学院教科書のベストセラーであり、この後も改訂版を重ねている。この版からミックス法が追加された。ミックス法は混合研究方法(MMR)のことである。当時はまだ日本語訳が定まっていなかったが近年では、「混合研究方法」が定着してきたといえよう。

表3 定番の質的研究方法に関する参考文献

ポープ C, メイズ N. 大滝純司訳. 質的研究実践ガイド—保健・医療サービス向上のために—第2版. 東京: 医学書院; 2008 (Pope C, Mays N. Qualitative research in health care 3rd edition. London: BMJ Books; 2006.)
リチャーズ L. 大谷順子, 大杉卓三訳. 質的データの取り扱い. 京都: 北大路書房; 2009 (Richards L. Handling qualitative data: a practical guide book 2nd edition. California: Sage; 2010.)
フリック U. 小田博志, 山本則子, 春日常, 他訳. 質的研究入門〈人間科学〉のための方法論 新版. 春秋社; 2011. (Flick U. An introduction to qualitative research 4th edition. California: Sage; 2009.)
萱間真美. 質的研究実践ノート—研究プロセスを進める clue とポイント. 東京: 医学書院; 2007.
ホロウェイ I, ウィーラー S. 野口美和子, 伊庭久江訳. ナースのための質的研究入門—研究方法から論文作成まで—第2版. 東京: 医学書院; 2006. (Holloway I, Wheeler S. Qualitative research in nursing 2nd edition. Oxford: Blackwell; 2002.)
コービン J, ストラウス A. 操華子, 森岡崇訳. 質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第3版. 東京: 医学書院; 2012. (Corbin J, Strauss A. Basics of qualitative research: techniques and procedures for developing grounded theory 3rd edition. California: Sage; 2008.)
クレスウェル JW. 操華子, 森岡崇訳. 研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法. 東京: 日本看護協会出版会; 2007. (Creswell JW. Research design: qualitative, quantitative, and mixed methods approaches, California: Sage; 2003.)
山本則子, 萱間真美, 太田喜久子, 他. グラウンデッドセオリー法と用いた看護研究のプロセス. 東京: 文光堂; 2002.

表4 質的手法または混合研究法を用いた健康増進・健康教育分野の10の論文例

- 1) Crisford P, et al. Understanding the physical activity promotion behaviours of podiatrists: a qualitative study, *J Foot Ankle Res.* 2013; 6: 37. <http://www.jfootankleres.com/content/6/1/37> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) 運動による健康促進に関する研究で、目的サンプリングで集めた20の半構造化インタビューを反復相互作用テーマアプローチを用いてグループ作業でNVivoを用いてコード作成した。
- 2) Hjarnoe L, Leppin A. Health promotion in the Danish maritime setting: challenges and possibilities for changing lifestyle behavior and health among seafarers, *BMC Public Health.* 2013; 13: 1165. <http://www.biomedcentral.com/1471-2458/13/1165> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) デンマークの海上における健康促進に関する研究で、個人の健康指標(人体生体測定:身長・体重・腹囲, 自転車エルゴメータを用いた心拍数測定, BMI, コレステロールとプラズマ・グルコース)の数値データ収集に加えて、介入の前後に自己回答標準化質問票調査とインタビューをあわせて行った。
- 3) Hosseini M, et al. Study on situational influences perceived in nursing discipline on health promotion: A qualitative study. *ISRN Nursing.* 2013; 2013 Article ID 218034, 9 pages, <http://dx.doi.org/10.1155/2013/218034> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) 看護師による健康促進に関する研究で、有意サンプリングにより20の深層半構造化インタビューを行い、質的内容分析を行った。
- 4) Kuzma J. Knowledge, attitude and practice related to infant feeding among women in rural Papua New Guinea: a descriptive, mixed method study. *Int Breastfeed J.* 2013; 8: 16. <http://www.internationalbreastfeedingjournal.com/content/8/1/16> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) パプアニューギニア農村における乳幼児への食事摂取に関する知識や態度に関する研究で、半構造化インタビューと2歳以下の子供をもつ母親を対象にFGDを行い、質的内容分析と量的な記述的統計を行った。
- 5) Merriam S, Muhamad M. Roles traditional healers play in cancer treatment in Malaysia: Implications for health promotion and education. *Asian Pac J Cancer Prev.* 2013; 14: 3593-3601. <http://dx.doi.org/10.7314/APJCP.2013.14.6.3593> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) マレーシアの癌治療における伝統治療家による役割に関する研究で、14人の伝統治療家、13人の癌生存者、12人の癌治療専門家に深層インタビューを行った。
- 6) Nelson JD, et al. Characteristics of successful community partnerships to promote physical activity among young people, North Carolina, 2010-2012. *Prev Chronic Dis.* 2013; 10: 13110. <http://dx.doi.org/10.5888/pcd10.130110> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) ノースカロライナの健康促進プログラム“East smart, move more”のコーディネーター20名に半構造化インタビューを行い、コーディングし、類似テーマごとにグルーピングを行った。
- 7) Person B, et al. A qualitative evaluation of hand drying practices among Kenyans. *Plos One.* 2013; 8: e74370. DOI: 10.1371/journal.pone.0074370. <http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0074370> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) ケニアにおける手洗い習慣に関する研究では、7つのFocus Group Discussion (FGD)、30の深層インタビュー、10の構造化世帯観察、75の公共場所での構造化観察(農村と郊外)を行い、グラウンデッドセオリー・アプローチを用いてナラティブデータをテーマ分析した。
- 8) Sundararajan R, et al. Barriers to malaria control among marginalized tribal communities: A qualitative study. *Plos One.* 2013; 12: 381966. DOI: 10.1371/journal.pone.0081966. <http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0081966> (2014年5月24日にアクセス). (解説) 辺境地のマラリア抑制プログラムに関する研究では、無作為と有意サンプリングによって集めた情報提供者やグループにFGDとインタビューを行なった。
- 9) Sylvestsky AC. Youth understanding of healthy eating and obesity: A focus group study. *J Obes.* 2013; 2013, Article ID 670295, 6 pages, <http://dx.doi.org/10.1155/2013/670295> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) 青年の摂食習慣と肥満に関する研究で、一連のFGDでの録音データを二次分析した。
- 10) Tetra Dewi FS, et al. A community intervention for behavior modification: an experience to control cardiovascular diseases in Yogyakarta, Indonesia. *BMC Public Health.* 2013; 13: 1043. <http://www.biomedcentral.com/1471-2458/13/1043> (2014年5月24日にアクセス).  
(解説) インドネシアにおける心疾患対策に関する研究では、PROVIAスタディの一部で、WHOの生活習慣病リスク調査のためのSTEPwiseアンケートを用いた量的データと、会議議事録、ファシリテーターの報告書、聞き取り調査、深層インタビューにより集めた質的データを用いた混合研究法を用いた。

注 Hjarnoe L, et al. (2013), Kuzma J (2013), Tetra Dewi FS, et al. (2013) の3本は量的研究とあわせた混合研究法

## VI 質的手法を用いた健康増進・健康教育分野における研究の論文例

質的手法または混合研究法を用いた健康促進・健康教育分野の10の論文例を表4に示した。ここでは、それぞれの論文における研究概要と特筆すべき点に関する解説を加えた。なお、この10編のうち、Hjarnoeら、Kuzma、Tetra Deweらの3編の論文は量的研究法とあわせた混合研究法である。

## VII まとめ

本稿では、健康教育分野でのますますの質的研究を用いた良い研究成果が発表されることを願いながら、まず、質的研究の方法論の基本について、量的との比較も交えながらまとめ、混合研究法も紹介した。つぎに、質的研究を上手に行うのに有用と思われる質的データ分析ソフト（QDAソフト）について紹介した。まずは方法ありきでなく「はじめにデータありき」で飛び込んでいただきたいが、やはり参考文献を読みながら具体的な研究プロジェクトを進めていくことになるだろう。そのようなときに参考になりそうな、参考文献をあげてみた。教科書的な書籍と、具体例として参考になる論文である。この1冊を読めばすべて解決ということはないので、いろいろな参考文献を読み比べて欲しい。自分の行いたい研究プロジェクトに似た論文を探してみることもよいであろう。自分の研究を進めるにつれて、以前読んだときはピンとこなかったことも理解できるようになり、また有り難く参考できるようになるであろう。孤独な作業ともなりがちな研究をグループ作業として進める方法を創ってほしい。健康教育は、世界

的にみても日本は進んでおり良い事例を多く持っていると思う。それが論文として文書化されることを楽しみにしている。

## 利益相反

利益相反に相当する事項はない。

## 文 献

- 1) 神馬征峰. 書評「質的データの取り扱い」. 公衆衛生. 2009; 73: 60.
- 2) クレスウェル JW, プラノクラーク VL. 大谷順子訳. 人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン. 京都: 北大路書房; 2010. 5-6.
- 3) クレスウェル JW, プラノクラーク VL. 前掲書 2): 42-62, 213-296.
- 4) 大谷順子. 事例研究の革新的方法—阪神大震災被災高齢者の五年と高齢化社会の未来像. 福岡: 九州大学出版会; 2006. 1-400.
- 5) Otani J. Older people in Natural Disasters. Kyoto: Kyoto University Press & Melbourne: Trans Pacific Press; 2010. 1-262.
- 6) 大谷順子. 災難後の重生. 台北: 南天書局; 2010. 1-346.
- 7) 佐藤郁哉. 定性データ分析入門—QDAソフトウェア・マニュアル. 東京: 新曜社; 2006. 1-220.
- 8) 佐藤郁哉. QDAソフトを活用する 実践 質的データ分析入門. 東京: 新曜社; 2008. 1-164.
- 9) 佐藤郁哉. 質的データ分析法: 原理・方法・実践. 東京: 新曜社; 2008. 1-211.
- 10) 佐藤郁哉. 暴走族のエスノグラフィー—モードの叛乱と文化の呪縛. 東京: 新曜社; 1987. 1-330.
- 11) Sato I. Kamikaze Biker: Parody and anomy in affluent Japan. Chicago: University of Chicago Press; 1998. 1-277.

(受付 2014.3.31.; 受理 2014.4.10.)

## Research methods with qualitative approaches: Applying to health education research

Junko OTANI\*<sup>1</sup>

### Abstract

Background: Qualitative methods attracts an increasing interest from many fields such as sociology, psychology, clinical psychology, education, cultural anthropology, health science, nursing science, medical anthropology, linguistics, history, media study, market research and so on. Health education is among the top. Reference books on qualitative methods have been published, including translation of major text books abroad. Yet not a few researchers who may be used to quantitative methods tend to hold uneasiness in applying qualitative approaches to their research design.

Contents: This article first introduces “Data first” approaches of Lyn Richards’ “Handling Qualitative Data” (Sage.), together with mixed methods research (MMR) of qualitative and quantitative approaches briefly, then qualitative data analysis (QDA) software. It also list up a set of references, both textbooks and a set of recently published research papers in the field of health education using qualitative methods as an example, with explanatory comments on their research design, hoping this to be a good reference for your future publication.

[JJHEP, 2014 : 22(2) : 177-184]

Key words: qualitative methods, qualitative data analysis (QDA) software, mixed methods research (MMR), health education

---

\*<sup>1</sup> Graduate School of Human Sciences Osaka University